

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。
このたび、下記検査項目におきまして、委託先より報告書の様式を変更する旨の連絡がありました。
取り急ぎのご案内となりますが、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

- 変更日 2018年 10月 1日(月) 委託先報告書発行分より
- 変更項目 (0577) LOX-index
- 変更内容 検査報告書の様式変更
- 主な変更点(委託先案内より) ※次ページをご参照ください。

①(表面) 下部への属性情報記載

旧来より、受診医療機関名、受診者氏名、検査会社コードを記載しておりましたが、新版では受診者の属性情報(受診日、カルテID、年齢、性別)が記載されます。
報告書を開かずに属性情報をご確認を頂けるようになります。

②(裏面) 評価の解説および二次検査/精密検査の表示レイアウト変更

評価の解説と併せてチャート形式にて表示しておりました二次検査/精密検査の表示を変更しております。評価の解説とリスクが高かった場合の参考情報を分けて記載する形へ変更しました。
また、検査の詳細情報を配信する解説サイトのURL、QRコードへの記載を拡大いたしました。

③(中面左側) 総合評価の過去受診日付を掲載

過去3回分まで★マークで表示される過去受診歴について、該当の受診日付の記載を行います。

④(中面右側) 個別時系列データの評価の廃止

sLOX-1,LAB、LOX-indexの個別評価を記載しておりましたが、医療機関様、受診者様より総合評価との混同が起きるとのご意見を多く頂いておりました。そのため、個別時系列データについて個別評価の表示を廃止致しました。

また、境界値についても右側に数値バーを記載する仕様と致しました。

表面

裏面

NKmedico



脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 将来の発症リスクを予測する「LOX-index」～

1

受診医療機関名 ノーリツカイ エヌケーメディクリニク 受診日 2018/10/01
 氏名 サンプル タロウ カルテID AS000-01234567891091 性別 男性 年齢 51歳
 0001-12150878-10121786

LOX-index®の総合評価について

高リスクの場合	中高リスクの場合	中リスクの場合	低リスクの場合
すでに何らかの動脈硬化性疾患が発症している可能性があり、将来に心筋梗塞/脳梗塞を発症する危険性があります。	高脂血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。	差し迫って危険性はありませんが、加齢は避けず、高脂血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。	引き続き定期的にLOX-index®を測定し、動脈硬化に伴う発症リスクを確認してください。
LOX-index®を受けた直後、頸動脈のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。	LOX-index®を受けた直後、頸動脈のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。	LOX-index®を受けた直後、頸動脈のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。	LOX-index®を受けた直後、頸動脈のドクターに相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。

2

検査でリスクが高かった場合・・・

生活習慣の見直しと改善に取り組み、予防への対策に取り組むことをお勧めします。また、動脈硬化が進行している可能性が高いため、必要に応じて二次検査を受診しましょう。二次検査の結果を受けて、生活習慣の改善などの予防的アプローチを行うか、治療を行うか、さらに精密検査を行うかについては医師の診断を受けることをお勧めします。(以下参照)

代表的な二次検査

- 頸動脈エコー検査**
超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度調べる検査です。プラークの有無や血管が狭くなっているかを調べます。
- CAVI検査、ABI/PWV検査**
動脈の硬さ、詰まりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べる検査です。血管年齢検査などとも呼ばれます。

代表的な精密検査

- CT検査(コンピュータ断層撮影)**
X線とコンピューターを使用し、心臓の状態を調べる検査です。
- MRI/MRA検査(磁気共鳴装置)**
電磁波を使用し、脳の断層像、血管の状態を映像化する検査です。
- 血管造影検査**
体内にカテーテルを差し、造影剤を入れ、X線撮影します。血管の状態を調べる検査です。

LOX-index®についてより詳しい情報はこちらから

- ◆スマートフォン・タブレットはQRコードでアクセス
- ◆PCの方は以下URLにアクセス
<https://nkmedico.com/lox-index-user/>



※当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。

検査実行: NKメディコ株式会社
 開発・解析: NKメディコ株式会社
 検査責任者: 梶川 亨

中面左側

中面右側

LOX-index® - 脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書 -

★受診日: 2018/10/01 ★氏名: サンプル タロウ 様
 ★カルテID: AS000-01234567891091 ★性別: 男性 ★年齢: 51

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** です

★ 今回の結果 (2018/10/01)
 ★ 前回の結果 (2017/09/01)
 ★ 前々回の結果 (2016/08/01)

LOX-indexとは?

動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール(LDL)と超悪玉コレステロールの抱い手であるLOX-1が結合することにより起こると考えられています。そのためLOX-index®は、LABとLOX-1を測定・解析することで、動脈硬化の初期段階を察知することができます。また日本国内で行われた追跡研究の結果、LOX-index®が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍とすることが分かっています。LOX-index®は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

超悪玉コレステロールLAB、超悪玉コレステロールの抱い手LOX-1がともに少し高めの結果で、血管障害リスク(血管が傷む危険性)が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。高血圧、高血糖、肥満、喫煙などの動脈硬化リスクを持っている人は、治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。LOX-1は炎症で上昇しますので、体内に炎症の発端がある可能性があります。また、LABは体内で活性酸素が発生することで、悪玉コレステロール(LDLコレステロール)がサビつき生成されます。これは食生活、運動習慣によって改善できますので、生活習慣を見直しましょう。状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

※当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用頂くことはできません。

3

4

個別時系列データ

sLOX-1

LAB

解説

超悪玉コレステロールの抱い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをしています。血管に障害が起こるとLOX-1が生成が促進されるため、LOX-1は血管炎の指標として利用されています。

今回の結果は、前回と同様にLOX-1の値が少し高い状態です。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、変化はDLなど代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起きていると考えられます。

この状態を改善するには、ストレスを避けることが重要です。メンタルストレスのほか、酸化ストレスにも注意して下さい。食を中心とした生活習慣の改善をお願いします。

解説

超悪玉コレステロール(LAB)は、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。

今回の結果は、前回より改善が見られますが、LABの値がまだ少し高い状態です。

更なる改善を目指すために、生活習慣を見直してみましょう。また今後、加齢などによりリスクが上がる可能性が高いため、生活習慣の改善などでLABを下げるように心がけて下さい。

解説

「LOX-index®」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、将来の脳梗塞・心筋梗塞発症率を大きく左右します。

今回の検査結果では、前回より少し改善しリスクは中程度と評価されました。更なる改善を目指しましょう。

今後、加齢などによりリスクが上がる可能性がかなり高いため、生活習慣の改善などでLOX-1とLABを下げる必要があります。よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。